

様式第1号（第6条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第2回坂戸市児童福祉審議会
開 催 日 時	令和6年8月9日（金） 午前10時00分 開会 午前11時45分 閉会
開 催 場 所	坂戸市役所301, 302会議室
議長（委員長・会長）の氏名	竹下 玲
出席者（委員）の氏名・出席者数	有光 博、土田 典子、大塚 早苗、田島美代子、島田 隆、 酒井 誠、竹下 玲、西村 早苗、安川 光、高橋 智子、 小川 君子、吉田 由加理 計12名
欠席者（委員）の氏名・欠席者数	本間 絹江、吉川 和美 計2名
事務局職員の職・氏名	こども健康部部長 井上 晋 こども健康部次長兼こども支援課長 三谷 良昭 こども健康部副参与兼市民健康センター所長 有田 さおり こども支援課 前川課長補佐、森田課長補佐、藤島係長、吉野主任、 石川主任 保育課：関口課長補佐、藤本係長、小谷野係長 市民健康センター 栗田係長
会 議 次 第	1 開 会 2 挨 拶 3 自己紹介 4 議 事 （1）第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画（令和2～6年度） の進捗状況について （2）子どもの貧困対策推進計画(平成30年～令和6年度)の進捗 状況について （3）こども・若者に対するアンケート調査の調査結果について （4）「坂戸市こどもまんなか計画」(仮称)の素案について 5 その他 6 閉 会

配 布 資 料	1 事前送付資料 (1) 資料1－1 坂戸市子ども・子育て支援事業計画（令和2～令和6年度）の進捗状況 (2) 資料1－2 子どもの貧困対策推進計画 取組一覧 (3) 資料2 坂戸市こども・若者アンケート調査調査結果報告書 (4) 資料3 坂戸市こどもまんなか計画（素案） 2 当日配布資料 (1) 令和6年度第2回坂戸市児童福祉審議会次第 (2) 坂戸市児童福祉審議会委員名簿 (3) 令和6年度第2回坂戸市児童福祉審議会事務局名簿 (4) こども大綱【説明資料】 (5) さいたまけん★こどものこえメンバー大募集！！ (6) こども・若者に対するアンケート項目一覧（確定版） (7) 基本理念対照表 (8) 第2章 坂戸市のこどもと家庭をとりまく状況 正誤表 (9) こどもまんなかアクションポスター (10) 熱中症特別警戒情報[熱中症特別警戒アラート] (11) 熱中症特別警戒アラート運用開始 (12) 坂戸市こどもまんなか計画（仮称）の策定スケジュールについて
---------	--

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
進行（事務局）	1 開会
	2 挨拶
	3 自己紹介
進行（会長）	4 議事 （1）第2期坂戸市子ども・子育て支援事業計画（令和2～6年度）の進捗状況について
事務局	資料1－1に基づき説明。
（質問） 委員	資料1－1（2）放課後児童クラブの数値について、量の見込みに対する実績が160%とかなり乖離しているが、どのように捉えるか。
事務局	量の見込みに対する実績の乖離については、認識しているところである。5年前に人口減少を踏まえて、見込みを立てたところであるが、今後は、人口の推計とともに地域の特性も加味し、量の見込みを立てていく。
事務局	（2）子どもの貧困対策推進計画(平成30年～令和6年度)の進捗状況について 資料1－2に基づき説明。 意見なし
事務局	（3）こども・若者に対するアンケート調査の調査結果について 資料2に基づき説明。
（質問） 委員	各回答については、全回答者中の回答割合と捉えてよいか。複数回答の設問については、その断りをいれてもらいたい。

事務局	複数回答の設問を含んでいる。報告書については、複数回答のものかどうかわかるように明記させていただく。
委員	同じ質問を年代別に行っているため、年代によって変化がわかる表を入れてもらいたい。
事務局	年代別の表を作成の上、報告書に加筆する。
委員	報告書の中には、貴重な意見が書かれており、このような情報を市役所内で共有することはないのか。
事務局	庁内で共有するように対応していく。
	(4)「坂戸市こどもまんなか計画」(仮称)の素案について
事務局	資料3に基づき説明
委員	こども・若者のアンケートを取った結果、市が課題感を持っているところはどんなところか。
事務局	こども計画を策定するにあたり、今までにない特徴として、保護者の意見のみならず、こどもの意見を聞いたところにある。今までやってきたことと、これからやろうとしていることに間違っただけのものはないと思うが、今回アンケートで得たこどもの思いを受け止めた計画書が最終的にできるよう議論していきたい。
委員	資料によると、坂戸市の合計特殊出生率が全国や埼玉県内に比べて低い要因は何か。
事務局	合計特殊出生率のデータの分析については、非常に難しい。こどもを沢山産んでいただきたいというのがあるが、過去住んでいたこどもが戻ってくるとか、今後住んでいきたい街として来ていただくことも、我々の目標として掲げていかなくてはならないと考えている。

委員	意見であるが、少子化は日本のトレンドであるため、近隣の市と子育て世帯の奪い合いになっていくと思われるが、イメージ戦略というか、坂戸市にもこれがあるから子育てしやすいというのが一つでもあると住んでみたいという気持ちになると思う。
委員	令和5年度の出生数を教えていただきたい。
事務局	令和5年度の出生数は、415人である。
委員	幼児の施設に関わっているものとして、園児の数が減ってきたという感じをひしひしと感じる。子育てしたい魅力ある街としてアピールしていくことは、切実な問題と感じている。
事務局	毎月の妊娠届出数を見ても、明らかに減少している。どういうふうに底上げしていくかが、課題になると考えている。
委員	今回子どもたち自身にアンケートをしたことは、大きなことだと思う。そこで、どのような意見があったか子どもに返す必要があると考える。その上で、市が向き合っているというか、大人が答えてくれる、ダメならダメなりの理由を言ってくれるんだ、対話があることを伝えられるよう考えていただきたい。
事務局	アンケートについては、子どもたちにどのような形で返すことができるか検討する。
委員	基本理念について、主役という言葉を感じる施策を入れてほしい。笑顔と言ったら笑顔を感じられるようなメッセージとか施策になってほしい。
委員	基本理念については、言葉を少なくし、皆が覚えられるようなものが馴染んでいくと思う。「子どもが主役になれるまち さかど」だけでもよいのかなと感じる。
	5 その他 (今後のスケジュールについて説明) 意見なし

	6 閉会
--	-------------